

国立ハンセン病資料館

I 教育啓発機能

1. 団体見学対応

事前予約をして見学に訪れる団体来館者に対しては、プログラムを用意して対応した。この団体見学対応プログラムは、ガイダンスビデオ視聴、語り部の話、展示見学の3つの要素で構成し、団体来館者の希望に応じて組み合わせて実施した。予約は10人以上から先着順で受け付け、火曜日は看護学校生向け対応とした。また希望する団体に対して、学芸員による展示解説等を行った。

1) 一般団体

【対応日】原則として平日午後（土・日・祝日は①と③のみ）

【内容】 ①ガイダンスビデオ『柵の向こう側』視聴（約40分、於映像ホール）

展示見学の手引きとして、平成19（2007）年に作成。内容は、日本を中心としたハンセン病患者・回復者の証言およびハンセン病対策の歴史と現状の概要説明で構成。

②語り部の話（約60分、於映像ホール）

③展示室自由見学

2) 小・中学生

【対応日】原則として平日

【内容】 ①ガイダンスビデオ視聴

小学生：『忘れられた人たち』視聴（9分、於映像ホール）

子どものための展示見学の手引きとして平成19（2007）年に作成。ハンセン病をめぐる偏見・差別と、身の回りのいじめとのつながりについて理解を促すもの。

中学生：『柵の向こう側』

②語り部の話（約60分、於映像ホール）

③展示室見学（展示室で学芸員が質問対応を行う）

3) 学芸員による来館者への対応

展示案内等を希望する団体に対する展示解説、小中高校生が展示を見学する際の質問係等を行った。

【実施団体数】401団体（待機を含む）

4) 平成 26 年度 月別来館団体数・団体来館者数（平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月）

月	来館団体数	団体来館者数	月	来館団体数	団体来館者数
4	36	1,310	10	44	1,611
5	26	864	11	54	1,865
6	38	1,687	12	19	768
7	40	1,240	1	26	1,129
8	26	703	2	33	1,441
9	32	1,063	3	27	961
			合計	401	14,642

【主な来館団体】小学校、中学校、高等学校、大学、専修学校（主に看護、福祉系）、教員、教育委員会、省庁、自治体、民生委員、人権擁護委員、福祉施設

2. 語り部活動・講義

1) 語り部活動

団体対応プログラムの一環として、多磨全生園入所者であり当館運営委員の佐川修と平沢保治が自らの体験とハンセン病史の概要を来館者に語る、語り部活動を実施した。本年度の実施状況は以下の通りであった。

【語り部】 佐川修（当館運営委員、多磨全生園入所者自治会長）
平沢保治（当館運営委員）

【実施団体数】 164 団体（全 401 団体中）

【対応来館者数】 8,100 人

2) 看護学校生向け講義

看護学校生を中心とした医療・福祉関係者に対し、ハンセン病の歴史と現状から学ぶ看護のあり方について講義を行った。講義は看護学校向け団体対応プログラムに組み込まれている（原則週 1 回、火曜日）。

【講師】 成田稔（当館館長、同運営委員、多磨全生園名誉園長）
儀同政一（当館社会啓発課長、同運営委員、ハンセン病研究センター客員研究員）
西浦直子（当館主任学芸員）

【実施団体数】 14 回

【対応来館者数】 685 人

3) 館外講演会への講師派遣

学校、自治体、教育委員会等からの依頼に応じ、下記の通り、語り部および学芸員等を講師として派遣した。

■語り部による館外での講演活動

月 日	内容・対象	主催	聴衆 (人)	講演者
4月19日	平成26年度「オリエンテーション・フェスティバル」	日本社会事業大学	191	佐川修
5月23日	人権教育研究協議会	東京都教育委員会	420	平沢保治
5月28日	平成26年度初任行政研修	人事院	130	平沢保治
6月10日	第6学年総合的な学習の時間「多磨全生園で学ぼう」講演会	東村山市立化成小学校	125	平沢保治
6月27日	2014年度「ハンセン病を正しく理解する週間」特別礼拝	横浜共立学園	1,200	佐川修
7月30日	第3回ハンセン病問題に関する教員研修事業	北海道はまなすの里	8	佐川修
8月4日	第36回ハンセン病医学夏期大学講座	同講座実行委員会	40	平沢保治
8月5日	久米川共同作業所を支える会総会	久米川共同作業所	40	平沢保治
8月8日	古河市人権教育講演会	古河市・古河市教育委員会	700	平沢保治
8月26日	4校合同人権教育研修会	さいたま市立三橋小学校	100	平沢保治
9月27日	道徳授業地区公開講座	西東京市立中原小学校	303	平沢保治
10月23日	茨城県古河市立古河第六小学校人権教育講演会	古河市教育委員会	300	平沢保治
11月17日	医学総論「らい予防法から学ぶこととは：医師になる者として」	東京慈恵会医科大学	128	平沢保治
11月24日	第48回障害者の生活と権利を守る全国集会	障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会	200	平沢保治
1月27日	THINK NOW ハンセン病—グローバル・アピール2015「ハンセン病国際シンポジウム」	日本財団	250	平沢保治
2月6日	総合的な学習の時間・研究発表会	東村山市立富士見小学校	152	平沢保治
2月26日	JD連続講座2014年度	NPO法人日本障害者協議会	200	平沢保治
3月3日	平沢さんの米寿をお祝いする会	古河市立古河第二小学校	435	平沢保治
合計			4,922	

【合計】18件 4,922名 ※聴衆は概数を含む

■学芸員等による館外での講演活動

月 日	内容・対象	主催	聴衆 (名)	講演者
5月15日	平成26年度サポート研修 講師養成「人権・同和問題Ⅱ」	東京都人権啓発センター	37	黒尾和久 稲葉上道
6月17・18日	人権担当者養成講座	宮崎県	70	儀同政一
7月30日	第3回ハンセン病問題に関する教員研修事業	北海道はまなすの里	8	儀同政一
8月6日	第36回ハンセン病医学夏期大学講座	同講座実行委員会	40	儀同政一
8月18日	東村山市夏季集中研修(小・中学校教員)	東村山市教育委員会	19	儀同政一
10月4日	第22回日本介護福祉学会大会	日本介護福祉学会	73	西浦直子
10月9日	社会復帰支援事務担当者会議	社会福祉法人ふれあい福祉協会	20	黒尾和久
10月31日	第2回国際ハンセン病歴史保存ワークショップ	笹川記念保健協力財団	30	黒尾和久 稲葉上道
11月1日	道徳授業地区公開講座	東久留米市立中央中学校	386	金貴粉
11月3日	第18回男女共同参画フォーラム	東京学芸大学 男女共同参画推進本部	50	金貴粉
11月17日	人権教育講演会	埼玉県立飯能高等学校(定時制)	100	黒尾和久
11月20日	ハンセン病講演会(石川県立看護大学1年生)	石川県健康福祉部	100	儀同政一
11月21日	ハンセン病講演会(石川県立総合看護専門学校1年生)	石川県健康福祉部	50	儀同政一
12月6日	人権を考える集い・第9回人権週間特別講演会	小金井市	40	儀同政一
1月10日	平成26年度道徳授業地区公開講座	板橋区立志村第五中学校	400	金貴粉
1月24日	錦城高等学校3年生	錦城高等学校	130	黒尾和久
1月27日	THINK NOW ハンセン病—グローバル・アピール2015「ハンセン病国際シンポジウム」	日本財団	250	黒尾和久
1月28日	Lakeland Lectures	レイクランド大学日本校	50	金貴粉
合計			1,853	

【合計】18件 1,853名 ※聴衆は概数を含む

3. シンポジウム・講演会等の開催

1) 特別企画展「林志明作品展—中国ハンセン病回復者の書画活動—」付帯事業

■講演会

・「私と書画活動」

【講演者】 林志明氏

【開催日】 平成 26 年 4 月 5 日

【会場】 映像ホール

2) 春季企画展「不自由者棟の暮らし—ハンセン病療養所の現在—」付帯事業

■講演会

・「沖縄愛楽園の不自由者棟」

【講演者】 山内和雄氏（沖縄愛楽園長）

【開催日】 平成 26 年 6 月 21 日

【会場】 映像ホール

3) 2014 年度秋季企画展・2015 年度春季企画展「この人たちに光を—写真家趙根在が伝えた入所者の姿—」事業

■講演会「趙根在の写真語る」付帯事業

【講演者】 大竹章氏（多磨全生園入所者）

【開催日】 平成 26 年 11 月 29 日

【会場】 映像ホール

4) 「ガイダンスビデオと平沢保治さんのお話し会」の開催

毎月第 3 日曜日、ガイダンス映像上映と語り部のお話しをセットにしたイベント「ガイダンスビデオと平沢保治さんのお話し会」を実施した（11 月と 2 月は未開催）。平成 26 年度の参加者数は 423 名。

5) 長島愛生園入所者自治会・邑久光明園入所者自治会主催「ハンセン病療養所の世界遺産登録を考える公開勉強会」への協力

黒尾和久学芸部長がパネルディスカッションのコーディネーターを担当した。

【開催日】 平成 26 年 11 月 22 日

【会場】 岡山国際交流センター（岡山県岡山市）

4. 資料の貸出等

1) 写真パネルの貸出

ハンセン病問題の啓発に資する展示を自ら企画したいという方々を対象に、写真パネルセットの貸出を行った。各園の写真を集めたセット（46 枚）、多磨全生園の写真を集めたセット（20 枚）、「たたかいつづけたから、今がある—全療協 60 年のあゆみ—」（52 枚）の 3 セットがあり、先方の希望に応じて貸し出した。

【件数】 12 件

2) 所蔵資料の貸出

当館で所蔵する資料の借受を希望する団体、個人に対して、資料の貸出を行った。

【件数】 9 件

3) 啓発用ビデオ、語り部ビデオの貸出

当館で作成した下記映像資料（いずれも DVD）を、希望する団体に対して貸出を行った。

【啓発用ビデオ】『忘れられた人たち』（小学生向け）、『ハンセン病を知っていますか？』（一般向け）、
『未来への虹ーぼくのおじさんはハンセン病ー』（小学生向け）

【語り部ビデオ】『平沢保治さん講演』（小学生中学年編、小学生高学年編、中学生編、教員編、看護学生編、公務員編）、『佐川修さん講演』（中学生編、一般・医療・看護学生編）

【件数】 54 件

4) 啓発資料等作成への協力

ハンセン病に関する啓発資料等の作成に当たり、当館所蔵資料の撮影や画像の複製により掲載等を希望する個人、団体に対して、撮影・複製許可等の協力を行った。

【件数】 56 件

5. 印刷物の発行・配布

下記の印刷物を発行し、来館者および関係機関等に配布した。

1) 『資料館だより』（季刊）

- ・第 83 号（平成 26 年 4 月 1 日発行、14,000 部）
- ・第 84 号（平成 26 年 7 月 1 日発行、13,000 部）
- ・第 85 号（平成 26 年 10 月 1 日発行、12,000 部）
- ・第 86 号（平成 27 年 1 月 1 日発行、12,000 部）

2) 来館者用配布資料等

- ・資料館リーフレットの改訂、40,000 部増刷。

3) 展示図録

- ・特別企画展図録『林志明作品展ー中国ハンセン病回復者の書画活動ー』（平成 26 年 4 月 5 日発行）
- ・春季企画展図録『不自由者棟の暮らしーハンセン病療養所の現在ー』（平成 26 年 7 月 15 日発行）
- ・2014 年度秋季・2015 年度春季企画展図録『この人たちに光をー写真家趙根在が伝えた入所者の姿ー』（平成 26 年 11 月 16 日）

4) その他

- ・子ども向け啓発図書、絵本『すみれ』（文：北條民雄、絵：山崎克己、編集：トムズボックス、平成 27 年 3 月 30 日）

6. 学校教育との連携

1) 教材ビデオの配布

教材ビデオ『平沢保治さん講演 小学生中学年編』、『平沢保治さん講演 小学生高学年編』、『平沢保治さん講演 中学生編』、『平沢保治さん講演 教員編』(いずれも DVD) について、希望する学校・教育関係機関に配布した。

【件数】 51 件 【配布本数】 120 本

2) 小中学校への送迎バス配車サービス

下記の通り送迎バスを計 29 回配車した。利用者の合計は、2,854 人。なお、平成 27 年度送迎バスサービス対象校の募集を平成 27 年 1 月 9 日から 2 月 13 日まで行った。その結果、31 校 (32 件) の応募があり、第 10 回運営委員会 (平成 27 年 2 月 19 日) の承認を経て、配車の決定を行った。

■配車サービス実施状況

	件数	利用人数 (人)	配車台数 (台)
小学校	23	2,239	47
中学校	4	549	11
児童自立 支援施設	2	66	2
合計	29	2,854	60

II 展示機能

1. 常設展示

1) 常設展示

展示室 1「歴史展示」、展示室 2「癩療養所」、展示室 3「生き抜いた証」、多磨全生園コーナー、およびプロムナード展示の 4 つのエリアで構成し、約 970 点の資料を展示している。

■展示室 1「歴史展示」

【趣旨・内容】病気についての簡潔な説明を導入展示として設置し、続けて日本における古代から現代までのハンセン病の歴史を、通史的に追う。常設展示の中心である展示室 2「癩療養所」、展示室 3「生き抜いた証」を見るための前提として、歴史的経緯の把握を目的とした展示と位置づけている。

【主な資料】 文書、写真、地図、実物資料、模型、解説映像、小学生向け解説シート

■展示室 2「癩療養所」

【趣旨・内容】化学療法開発以前の時代を中心に、療養所における苦難に満ちた生活、隔離政策のもとでの人権侵害、偏見・差別の実例を示す。療養所および所内での生活を成り立たせてきた各要素でコーナーを構成し、雑居部屋と「重監房」の 1 室原寸大模型も展示している。

【主な資料】 生活用具・作業道具・治療器具等の実物資料、男子独身軽症者寮「山吹舎」の 1 室（模型）、「重監房」の 1 室（模型）、文書、写真、解説映像

■展示室 3「生き抜いた証」

【趣旨・内容】苦しい状況にあったからこそ自らの生きる意味を探り見いだしてきた、患者・回復者の力強い姿と、ハンセン病をとりまく諸状況を示す。具体的には、患者運動、創作活動、共に生きる手がかりとなる知識などを展示している。また、国内 42 人、海外 22 人の回復者・関係者の証言映像を視聴できるビデオブース（証言コーナー）を設けている。なお展示室 2 から展示室 3 に至る回廊には絵画作品を、展示室 3 の北側展望ギャラリーには陶芸作品を展示している。

【主な資料】 写真、文書、文学作品、絵画、陶芸、書、手芸、スポーツ・演芸の道具、治療薬、補助具・補装具、海外のハンセン病に関する文書類、解説映像、証言映像

■多磨全生園コーナー

来館者から問い合わせの多い多磨全生園について、納骨堂や望郷の丘など園内見学の代表的なスポットとなっている場所を 9 カ所選び、主に 1930 年代と現在の写真を見比べられるように展示している。

■プロムナード展示

設立準備（平成 2 年）から開館 20 周年（平成 25 年）までの当館の足跡、館の目的・理念・機能、基本情報（面積、運営費等）を展示している。

2. 企画展示・特別展示

1) ハンセン病資料館の自主企画による企画展示

■特別企画展「林志明作品展—中国ハンセン病回復者の書画活動—」の開催

【会期】 平成 26 年 4 月 5 日～5 月 11 日

【会場】 ギャラリー

【趣旨】 中国ハンセン病回復者である林志明氏が苦難の中でも自身の生きた証をのこすために丹精こめて描いた牡丹や鳥、虎などの中国画や書作品 22 点を紹介する。

【刊行物】 展示図録『林志明作品展—中国ハンセン病回復者の書画活動—』（平成 26 年 4 月 5 日発行）

【付帯事業】 講演会「私と書画活動」（平成 26 年 4 月 5 日、講演者：林志明氏）

【担当】 金貴粉（学芸課）

■春季企画展「不自由者棟の暮らし—ハンセン病療養所の現在—」の開催

【会期】 平成 26 年 4 月 26 日～7 月 27 日

【会場】 企画展示室

【趣旨】 全入所者の 6 割以上が暮らす不自由者棟の様子を紹介し、現在のハンセン病回復者や療養所への認識を深め、ハンセン病問題の将来的な展望を考えるきっかけとする。

【刊行物】 展示図録『不自由者棟の暮らし—ハンセン病療養所の現在』（平成 26 年 7 月 15 日発行）

【付帯事業】 講演会「沖縄愛楽園の不自由者棟」（平成 26 年 6 月 21 日、講演者：山内和雄氏）

【担当】 田代学（学芸課）

■2014 年度秋季・2015 年度春季企画展「この人たちに光を—写真家趙根在が伝えた入所者の姿—」の開催

【会期】 平成 26 年 11 月 16 日～平成 27 年 5 月 31 日

【会場】 企画展示室

【趣旨】 趙根在が、1960 年代から 1980 年代にかけて全国のハンセン病療養所をまわって撮影した写真のなかから 81 点を選び、当時の療養所の様子や入所者の生き様を伝える写真を紹介する。

【刊行物】 展示図録『この人たちに光を—写真家趙根在が伝えた入所者の姿—』（平成 26 年 11 月 16 日発行）

【付帯事業】 講演会「趙根在の写真を語る」（平成 26 年 11 月 29 日、講演者：大竹章氏）

【担当】 金貴粉（社会啓発課）

2) 巡回展・特別出張展示

■「人権の歴史とアーカイブズ—ハンセン病、隔絶の歴史を超えて—」の開催

【会期】 平成 26 年 10 月 30 日～12 月 2 日

【会場】 東京都公文書館閲覧室内展示コーナー

【趣旨】 国立ハンセン病資料館と東京都立公文書館との共催により両館が所蔵するハンセン病に関する資料を展示し、東京におけるハンセン病対策の歴史を見つめなおし、偏見差別の解消や名誉回復などの課題を広く共有する。

【担当】 黒尾和久（学芸部長）、大高俊一郎（学芸課）

3) 関連機関等への施設貸出(展示)

■「第41回 国立療養所多磨全生園まつり 人権パネル展」

【主催】 東京法務局、東京都人権擁護委員連合会

【会期】 平成26年11月3日

【会場】 ギャラリー

【内容】 全生園まつりにおける人権パネル展の展示、人権啓発ビデオの放映

■「第2回多磨全生園絵画展」

【主催】 多磨全生園入所者自治会、NPO法人東村山活き生きまちづくり

【会期】 平成26年12月16日～平成27年2月1日

【会場】 ギャラリー

【内容】 全生園まつりで展示された絵画作品(一般からの応募)を展示

4) 平成27年度企画展等の準備

平成27年度秋季企画展「私立ハンセン病療養所 待労院の歩み―創立から閉院までの115年―」の準備を行った。

Ⅲ 収集・保存機能

1. 資料の収集

平成 26 年度開催および平成 27 年度開催予定の企画展準備に付随して資料の収集を行った。また、寄贈・購入等により、各療養所における生活資料、回復者による作品、文書資料、書籍等ハンセン病にまつわる資料の収集を行った。

【購入】 918 件

【寄贈】 53 件

【寄託】 1 件

2. 収蔵資料の保存・管理

1) 分類・整理

- ・収蔵資料のうち文書資料および遺品資料の整理・目録作成を実施した。
- ・収集された実物資料の整理・目録作成を実施した。
- ・収蔵庫 1、収蔵庫 2 の整理作業を実施した。

2) 保存・管理

- ・企画展示室内および春季企画展展示資料・新収蔵資料に関する燻蒸の準備・燻蒸作業・燻蒸後資料整理を行った。
- ・多磨全生園写真パネルの修理・クリーニングを行った。

3) 館内環境の保全

- ・収蔵エリア（特別収蔵庫・収蔵庫 1・2・前室・一時保管庫）および常設展示室の資料保全にかかる環境調査および整備を行った。
- ・常設展示室設置展示ケース内へのアートゾーブ（調湿保存剤）設置を行った。
- ・収蔵庫環境は、恒温恒湿空調管理によって、夏期 24℃・冬期 20℃、湿度は年間を通じて 50%前後を確保し、その他は開館時間のみ冷暖房を用いた。
- ・収蔵庫 1 および特別収蔵庫の前室の相対湿度が上昇・不安定化していることについて設備管理部門と協同して状況調査および対策の検討、対応を行った。
- ・館内 IPM（総合的有害生物管理）環境向上に向けたプランを作成し、学芸部内で検討した。

IV 情報センター機能

1. 国立ハンセン病資料館公式ホームページの運用

当館公式ホームページの保守管理・更新を行った。昨年度に引き続き広報活動の一環として企画展等催事情報の提供、『資料館だより』PDFデータの掲載、刊行物の掲載、開館・休館等に関する情報の提供を行うと共に、「お知らせメール」の配信、新聞・雑誌記事検索システムの公開と目録データの追加、リンクの追加等を実施した。

またホームページの視聴者調査を継続して行い、視聴者に人気のあるページ（利用案内・交通案内、イベント情報、ガイダンスビデオと平沢さんのお話し会、Q&A）の充実をはかった。さらに、日本博物館協会 HP に展覧会情報を掲載し、より多くの利用者に向けて情報を発信した。

国立ハンセン病資料館 ホームページ <http://www.hansen-dis.jp/>

2. 情報提供・検索システム関連業務

昨年度に引き続き、データベースの改良、追加を行った。図書室検索システムについて、「機関誌」「資料集」「新聞・雑誌記事」の全件検索を可能とする改良を継続して行い、各園自治会等発行資料のPDFデータを電子書籍化し、図書室内貸し出しタブレットにて閲覧できるよう支援した。また菊池恵楓園社会交流会館モノ資料整理計画に関する資料カード検索DBを作成した。

3. 図書室の管理・運営

- ・逐次新刊図書、古書を購入・受贈し蔵書の充実をはかると共に、それらの登録・排架、来館者へのレファレンス、研究支援等情報提供、蔵書に関連する情報の収集等を行った。また映像資料の収集および室内での公開を行った。
- ・図書閲覧室に書架を増設した。それに伴い書籍の配置換え、書庫内書籍の閲覧室への移動排架を行った。
- ・雑誌資料に掲載されているハンセン病関係記事のチェックを行った。
- ・高松宮記念ハンセン病資料館時代の古いコピー資料の内容確認及び分類作業を行った。
- ・長島愛生園歴史館、菊池恵楓園社会交流会館との図書資料のネットワーク化について検討した。
- ・啓発活動に用いる絵本『すみれ』を作成した。

■平成 26 年度月別図書室利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
開室日	24	26	24	26	26	23	26
新規資料受入数	90	88	53	116	147	69	89
レファレンス	7	11	8	11	11	6	6
利用者数	251	293	222	311	354	256	322
資料出納数	12	16	2	2	10	12	14
資料複写件数	237	104	29	46	309	106	146
新規登録者	2	3	6	6	6	4	3
外部貸出冊数	26	24	12	25	43	24	22

	11月	12月	1月	2月	3月	計
開室日	25	21	23	22	25	291
新規資料受入数	106	94	95	96	78	1,121
レファレンス	7	3	4	3	8	85
利用者数	398	270	238	314	185	3,414
資料出納数	13	11	2	6	2	102
資料複写件数	36	54	58	67	30	1,222
新規登録者	5	0	3	2	4	44
外部貸出冊数	35	23	28	18	29	309

重監房資料館

I 歴史継承機能

1. 資料の収集・保存

- 1) 山形弘喜氏（栗生楽泉園退所者）からの寄贈品の受領・保管
・昭和初期に湯之澤部落で使用していた陶器製行火 1 個の寄贈を受け、収蔵した（5 月 15 日）。
- 2) 故・上野栄二氏（元栗生楽泉園入所者）遺品の調査と資料の収集・保管
・故・上野栄二氏のご遺族による遺品整理後、自治会、世話人、及び園の許可を得て居室に遺留されていた遺品のうち古写真、茶箱、木製踏台等を引き継ぎ、収蔵した（7 月 3 日）。
- 3) 山形弘喜氏（栗生楽泉園退所者）からの寄贈品の受領・保管
・昭和初期に湯之澤部落で使用していた木製角形火鉢 1 個の寄贈を受け、収蔵した（9 月 19 日）。
- 4) 山形弘喜氏（栗生楽泉園退所者）からの寄贈品の受領・保管
・昭和初期に湯之澤部落で使用していた鋳物製丸形火鉢 1 個の寄贈を受け、収蔵した（10 月 17 日）。
- 5) 故・古間木良子氏（元栗生楽泉園入所者）遺品の調査と資料の収集・保管
・故・古間木良子氏のご遺族による遺品整理後、自治会、世話人、及び園の許可を得て居室に遺留されていた遺品のうち、桐箆筥、アルミ製鍋等を引き継ぎ、収蔵した（12 月 7 日）。

2. 屋外展示（跡地）環境の保全

- 1) 跡地見学環境整備
・跡地及び見学通路の下草・笹刈り、雑木伐採等の環境整備を実施した（4 月 20 日～6 月 5 日）。
- 2) 跡地見学者用デッキ及び見学スペース一般公開の開始
・開館 1 周年記念事業である跡地見学者用デッキ周辺整備の完了に伴い、国立療養所栗生楽泉園の坂本浩之助園長、草津町の黒岩信忠町長、厚生労働省の成井進疾病対策課課長補佐、藤田三四郎栗生楽泉園入所者自治会長の 4 氏によるテープカット式を挙行、一般公開を開始した（4 月 30 日）。
- 3) 跡地展望台の整備と案内板設置
・跡地の北西側に展望台を整備し、簡易的な解説を付した案内板を設置した（6 月 12 日～6 月 28 日）。
- 4) 展望台一般公開の開始
・跡地展望台の完成に伴い、一般公開を開始した（7 月 2 日）。
- 5) 特定外来生物の駆除

- ・自然発生した特定外来生物「オオキンケイギク」を環境省のマニュアルに従って駆除した(7月11日)。

3. 調査・研究

1) 司法機関による調査への協力

- ・最高裁判所事務総局が総務局内に設置した「ハンセン病を理由とする開廷場所指定に関する調査委員会」が資料収集と調査を行うにあたって有識者の意見を聞くために開催された「ハンセン病を理由とする開廷場所指定の調査に関する有識者委員会(座長:井上 英夫 金沢大学特任教授)」メンバーによる国立療養所栗生楽泉園特別法廷現地調査に協力した(1月25日)。

2) 当事者ヒアリング調査

- ・国立療養所栗生楽泉園入所者への聞き取り調査を実施した(4月15日～翌年3月25日)。

3) 園内資料調査

- ・国立療養所栗生楽泉園での資料調査(入所者宅を含む)を実施した(6月1日～12月25日)。

4) 園内史跡調査

- ・国立療養所栗生楽泉園の旧第2農園跡がある山林踏査に協力した(10月7日)。

5) 土壌サンプルの採取

- ・跡地発掘で採取した土壌サンプルから、らい菌DNAが検出されたことに関連し、比較検証のための東北新生園周辺で土壌サンプル採取を行った(11月12日)。
- ・同上の目的で熊本県菊池医療刑務支所跡及び本妙寺周辺で土壌サンプル採取を行った(11月29日)。

II 普及啓発機能

1. 調査・研究成果の発表

1) 日本ハンセン病学会における研究発表

・香川県高松市で開催された第88回日本ハンセン病学会総会・学術大会において演者として登壇し「特別病室(重監房)跡地の基礎調査と保全対策」と題して、発掘時に採取した土壌サンプルから、らい菌DNAが検出されたこと、遺構の劣化防止と保存を目的とした特殊樹脂加工処理を行ったこと、遺構の基礎構造調査を行った等について発表した(於:高松市アルファあなぶきホール・6月1日~3日)。

2) 歴史的建造物の保存等検討会における報告

・東京都霞ヶ関で開催された厚生労働省健康局疾病対策課主催の第8回歴史的建造物の保存等検討会において「重監房跡地の保全と資料館活動」について報告し、跡地の遺構保全対策として実施したコンクリート基礎の特殊樹脂による保護工法について説明した(於:東京都霞ヶ関中央合同庁舎第7号館・7月10日)。

3) ハンセン病コメディカル学術集会における研究発表

・熊本県合志市で開催された第27回ハンセン病コメディカル学術集会において演者として登壇し「特別病室(重監房)跡地の土壌から検出されたらい菌DNAに関する一考察・要治療患者の収容を示す科学的根拠の可能性について(第1報)」と題して、跡地の土壌サンプルからヒト由来のらい菌DNAを検出したこと、重監房に要治療患者が収容されていたことを強く示唆する結果が得られたこと等を発表した(於:国立療養所菊池恵楓園恵楓会館・11月27日~28日)。

2. 語り部活動

1) 語り部の日の設定

・ハンセン病回復者が自ら市民に直接語り掛ける機会を設けることで、ハンセン病をめぐる差別と偏見の解消を目指す普及啓発の拠点としての機能を果たすべく、回復者の山形弘喜氏、中村教良氏、岸従一氏、藤田三四郎氏の協力を得て「語り部の日」を設定し、期間中に全16回開催、179人の参加を得た(7月18日~11月25日)。

3. 人権学習の支援

1) 行政の人権研修への協力

・山梨県主催のハンセン病に関する普及啓発事業の一環として開催された国立ハンセン病資料館や小川正子記念館のパネル展示に併せて「特別病室と呼ばれた重監房が造られた理由」と題して講演した。(於:甲府市、やまなしプラザオープンスクエア・7月27日)。
・東京都霞ヶ関で開催された厚生労働省健康局疾病対策課主催の都道府県ハンセン病対策担当者会議において「ハンセン病対策と人権」について講演した(於:東京都霞ヶ関厚生労働省・2月4日)。

2) 団体等の人権学習会への支援

- ・群馬県退職校長会の研修において「特別病室（重監房）とハンセン病問題」について講演した。（於：草津町、ホテル櫻井・10月13日）。
- ・群馬県伊勢崎市教育委員会主催の地区別人権学習会において「ハンセン病と人権について」講演を行った（於：伊勢崎市、殖蓮公民館・10月26日）。
- ・東京都北区社会教育団体風を紡ぐ会主催の人権学習会において「ハンセン病と人権について」講演を行った（於：東京都北区赤羽、赤羽文化ホール・12月13日）。

4. 執筆活動

1) 新聞コラム記事の連載

- ・上毛新聞社のオピニオン21欄で「ハンセン病問題と人権」をメインテーマとした連載記事を執筆（初回12月8日～10月16日）。

5. イベントの開催

1) 来館者1万人達成イベント

- ・開館以来の来館者数が1万人を越えたことを記念して、1万人目の来館者に当館運営委員で栗生楽泉園入所者自治会長の藤田三四郎氏より記念品を贈呈し、マスコミ取材を受けた（6月25日）。

2) 企画展の開催

- ・「とがなくてしすー私が見た特別病室ー」で特別病室（重監房）の実態を世に知らしめた、栗生楽泉園の元入所者で作家の故・沢田五郎氏の没後7周年を記念して、歌会（短歌・俳句）での活動やバードサンクチュアリ、栗生盲人会での活躍など多彩な足跡にスポットを当てた「沢田五郎特別展」を開催した（10月21日～11月14日）

6. 学校教育支援活動

1) 学校教育への支援

福島県立医科大学医学部のハンセン病と人権についての学内公開講座において「我が国のハンセン病対策の歴史」について学部生を対象に講義した（於：福島市、福島県立医科大学医学部講義室・11月11日）。

2) 学校・教育委員会への広報活動

群馬県内の教育機関に重監房資料館を知って頂くこと、広めることをコンセプトとして、広報活動をしてきたが、県内の教育委員会への訪問、広報活動は、ほぼ終了することができた。

- ・群馬県内教育委員会訪問（12月上旬）

群馬県内遠方の市町村を中心に、約15か所を訪問。

3) 学校団体来館

- ・小学校、中学校、専門学校、大学43団体、1,163人が来館（全団体の3割）。
- ・近隣の学校では、草津町立草津小学校（11月18日）、草津町立草津中学校（12月10日）、中之条町立六合小学校（10月15日）が来館。

7. 広報活動

1) レンタルDVDの貸し出し

- ・当館PR・DVD「重監房資料館への道」を作成し、貸し出しを開始した（5月15日）。

2) 観光施設、観光輸送機関に対する広報活動

前年度の草津町周辺に続き、吾妻、伊香保、軽井沢、嬭恋、高崎、前橋等にもエリアを広げて、観光客が多く集まる施設、主要観光輸送機関をターゲットにアプローチを行い、県内の主要観光関係施設への広報活動は、ほぼ終了した。

- ・草津周辺、吾妻一帯の観光施設（観光協会、旅館組合、駅、商工会、道の駅、博物館、集客施設等）。草津町内では、新たに主要旅館・ホテルへも挨拶。（4月下旬フルオープン開館直前）
- ・吾妻一帯、県内外の観光施設（観光協会、駅、集客施設等）。（7月下旬夏休み前）
- ・「群馬の博物館・美術館 2015」出展（群馬県博物館連絡協議会主催、中之条町歴史と民族の博物館「ミュゼ」共催）

【会場】中之条町ツインプラザ学習センター展示ホール

【会期】8月4日～8月13日

8. 栗生楽泉園との連携

1) 楽泉園・資料館双方を見学する来館者について、楽泉園との円滑な連携体制の維持。

- ・楽泉園と資料館の両方を見学する来館者対応について打合せ（随時）。
- ・楽泉園福祉課の見学担当者との連絡を励行。

2) 栗生楽泉園新採用者オリエンテーションへの協力

- ・4月1日付新採用・転入職員に映像と展示資料を用いてハンセン病問題と特別病室（重監房）の歴史を解説した（於：館内レクチャー室、展示室4月3日）。

3) 栗生楽泉園社会交流会館展示室のリニューアルへの協力

- ・栗生楽泉園社会交流会館運営委員会に出席し、資料の分類、展示方針、年表作成、時代考証等に関する助言をした（於：栗生楽泉園入所者自治会会議室・5月13日～翌年3月31日・翌年度継続）。

9. その他

1) 博物館実習の実施。

- ・大学の博物館学芸員課程より実習生を受け入れ、館務実習を実施した（10月19日～12月17日）。

Ⅲ 再現・展示機能

1. レクチャー室

1) ガイダンス映像の上映

- ・一般向けにハンセン病問題を解説した「重監房の記憶」を上映している（約 25 分）。
- ・小・中学生向けのガイダンス映像「楽泉園の子供たち」を上映している（約 18 分）。

2) その他の利用

各種研修・学習会等に利用している。

2. エントランス・ホワイエ

1) ハンセン病に関する展示

ハンセン病について、簡単なパネルと治療薬の展示を行っている。

2) 普及啓発コーナー

掲示板上に新聞や雑誌の関連記事を掲示するとともに、必要なお知らせについて情報提供している。

3. 常設展示

1) 第1展示室

・特別病室（重監房）のジオラマ

縮尺 20 分の 1 の再現模型を展示しており、特別病室（重監房）の全体像や立地が俯瞰的に学習できる。

・収監者のパネル

93 人の収監者のプロフィールをパネルにして時系列に沿って展示し、収監実態が分かるように工夫している。

・再現映像の上映

現存する資料や入所者の証言に基づき、収監者の重監房での様子を再現した映像を上映している（約 8 分）。

・実寸大で部分再現された「特別病室（重監房）」の内部

医務室や独房につながる通路、夏と冬のふたつの独房を実寸大で忠実に再現し、内部を見学できる構造になっている。学芸員が同行する館内ガイドツアーでは、見学者は実際に独房の内部に入り、扉の閉鎖や施錠された時の絶望感を体感することも可能。立地条件をリアルに体験できるように昼間と夕暮れの日差しの雰囲気、照明機器を自動的に調整して臨場感を演出している。

2) 第2展示室

・ハンセン病問題の年表

我が国におけるハンセン病問題にまつわる主な出来事を、明治時代以降の年表として時系列的に学習できる。また戦後の部分では、日本ニュース社によって昭和22年に撮影された本物の特別病室（重監房）の映像を視聴できる。

- ・出土遺物発掘報告コーナー

遺物を通して重監房の過酷さを伝えることを目的として、重監房跡地の発掘調査によって出土した遺物と解説パネルの展示を行っている。南京錠の実物大写真、独房内の便槽写真、建材である木片、弁当箱、差し入れ品などを展示している。

- ・証言映像コーナー

複数の元患者の証言を映像と音声で視聴できる。現代日本人からは想像もつかない実体験が、当事者の生々しい声で伝わって来る。

2) 常設展示の更新

- ・館内の全館燻蒸を実施した。

- ・展示室1の「収監者のプロフィール」コーナーの解説文の一部を修正した。

- ・展示室2について、以下の更新を行った。

「歴史年表1」コーナーの年号、解説文の一部を修正した。

「収監者・事件パネル」コーナーの年号の一部を修正した。

「日本ニュース試聴」コーナーに大型モニターを設置した。

- ・特別病室（重監房）跡地の案内板と解説板を更新した。

4. 企画展示

- ・沢田五郎（栗生楽泉園入所者、盲目の作家）没後7周年記念企画として「沢田五郎特別展」を開催した。

【会期】平成27年10月21日～平成27年11月14日

IV情報発信機能

1. ホームページ

- ・新着情報の追加掲載、外部へのリンク追加等を行い、英語版ホームページの開設準備と試験運用を行った。
- ・その他、各画面の追加。(レンタル DVD 予約画面、第 89 回日本ハンセン病学会総会・学術大会(2016/6/6～8) 申込ページ作成、カレンダー画面追加等。)

重監房資料館 ホームページ <http://sjpm.hansen-dis.jp/>

2. 広報資料の作成・発行

- ・草津町広報誌『いでゆ』(第 606 号、6 月)に、重監房跡地の展望台完成についての記事掲載。
- ・資料館だより『くりう』No. 4～No. 6 発行(5 月 13 日、7 月 31 日、1 月 18 日 各 10,000 部)。
各療養所、関係者、関係機関、団体に、約 5,000 部配布。
- ・リーフレット増刷(9 月 30 日 10,000 部)
- ・チラシ増刷およびフォーマット変更(裏面英文表示化)(5 月 15 日 15,000 部)

3. マスコミ対応

- ・マスコミ各社からの取材対応
テレビ、ラジオ 6 社
新聞社 9 社
その他 6 団体等

4. その他

- ・お客様、旅行会社当に対するパンフレット発送を、随時、行った。
- ・電柱表示を 2 ケ所追加設置(3 月 31 日 合計 8 か所)等。

※広報活動については、「II 普及啓発機能」参照。

V 平成26年度・27年度利用状況

1) 開館日数

平成26年度（平成26年5月1日～平成27年3月31日）の開館日数は、228日であった。

平成27年度（平成27年4月1日～平成28年3月31日）の開館日数は、243日であった。

2) 入館者数

平成26年度・平成27年度の各月入館者数、および各月の開館日に対する1日あたり平均入館者数は以下の通りであった。

		入館者数 (人)	開館日 (日)	一日平均 (人)	団体入館者 (人)	備考	
平成26年度	4月						
	5月	2,133	23	92.74	776	フルオープン期間 (～11/14)	
	6月	658	21	31.33	233		
	7月	769	22	34.95	215		
	8月	1,325	23	57.61	628		
	9月	1,008	20	50.4	627		
	10月	1,285	23	55.87	940		
	11月	852	19	44.84	743		
	12月	76	18	4.22	76	団体専用期間 (11/15～4/25)	
	1月	47	19	2.47	47		
	2月	55	19	2.89	55		
	3月	185	21	8.81	185		
		合計	8,393	228	36.81	4,525	
	平成27年度	4月	464	21	22.1	412	団体専用期間(～4/25)
5月		772	23	33.57	406	フルオープン期間 (4/26～11/14)	
6月		546	20	27.3	324		
7月		688	23	29.91	357		
8月		882	22	40.09	384		
9月		687	21	32.71	331		
10月		843	23	36.65	487		
11月		624	19	32.84	449		
12月		193	18	10.72	193	団体専用期間 (11/15～4/25)	
1月		76	16	4.75	76		
2月		77	17	4.53	77		
3月		173	20	8.65	173		
		合計	6,025	243	24.79	3,669	

平成26年度：【入館者数平均】36.81人/日 【団体利用状況】276団体 4,525人(学校団体：45団体 983人)

平成27年度：【入館者数平均】24.79人/日 【団体利用状況】235団体 3,669人(学校団体：43団体 1,163人)